Nature News

撮影：2023 年 12 月 2 日　網張の森

ツルアジサイ（アジサイ科）

タニウツギ（スイカズラ科）

アキノキリンソウ（キク科）

冬の森。花も葉もない木々も、枝先を見ると、春を待ちわびる小さな芽が並んでいます。ぜひ樹木に近づいて枝先に付いている**冬芽**（休眠・越冬をして春に伸びて葉や花になる芽）を観察してみましょう。

冬芽は樹木が冬の寒さや乾燥に耐えている姿。厳しい冬を越すために、樹木はいろいろな工夫をしています。

冬、人間は寒さから身を守るために暖かい洋服を着たり、乾燥を防ぐためにクリームを塗ったりしますね。実は樹木の中にも人間と同じことをしているものがいるようです。

参考：『冬芽ハンドブック』文一総合出版
筑波大学山岳科学センターHP
秋田森づくり活動サポートセンターHP

ミズナラ（ブナ科）

水滴型～卵型で断面が５角形。芽鱗は多数がうろこ状に重なります。

※芽鱗…冬芽を包んでいる鱗状のもの

トチノキ（スイカズラ科）

頂芽は大きく弾丸のよう。正面から見える芽鱗は７枚ほど。水あめ状の樹脂を分泌し、べとつきます。

タムシバ（モクレン科）

まるで毛皮のコートのような、ふさふさと毛の生えた覆で芽を守っています。

ハウチワカエデ（カエデ科）

水滴型。枝先に通常仮頂芽が２個並びます。見える芽鱗は３～４枚。

ハリギリ（ウコギ科）

頂芽は半球形～円錐形で無毛。芽鱗は赤黒くつやがあります。ハリギリの冬芽は、マイナス 70℃まで耐えられる。日本の広葉樹では、最も寒さに強い樹木の一つです。

森の様子や散策コースついてお気軽にスタッフにお声がけ下さい。